

高知工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	世界文化論
科目基礎情報						
科目番号	1055		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合科学科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	オイゲン・ヘリゲル『日本の弓術』					
担当教員	佐々木 正寿					
到達目標						
【到達目標】 1. 世界のさまざまな文化のあり方、そして世界のなかでの日本文化を知る。 2. さまざまな文化圏のあいだの交流について知り、グローバル化の時代を生きる人間としての教養を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	世界の地域ごとの文化を十分に理解し、説明できる。		世界の地域ごとの文化を概略的に理解し、説明できる。		世界の地域ごとの文化を断片的にのみ理解している。	
評価項目2	文化の複数性や混交性を詳細に理解し、それをもとに現代社会の課題についてさまざまな視点から論じることができる。		文化の複数性や混交性を理解し、現代社会の課題に取り組むための意見を持てる。		文化の複数性や混交性に関心を持てず、現代社会の課題について理解できない。	
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 【機械・電気工学教育プログラム】(A) 学習・教育到達度目標 【建設工学教育プログラム】(A) 学習・教育到達度目標 【物質工学教育プログラム】(A) JABEE 基準1(2)【機械・電気工学教育プログラム】(b) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(b) JABEE 基準1(2)【物質工学教育プログラム】(b)						
教育方法等						
概要	テーマ：オイゲン・ヘリゲル『日本の弓術』を読む。同書を精読することを通じて、世界の中での日本文化の特質について理解を深める。					
授業の進め方・方法	グローバル化の時代において、世界文化における日本文化の特性や意義についてあらためて考えてみることは、これまで以上に重要であると思われる。本講義では、戦前の日本に滞在して日本文化の理解に努め、その体験にもとづいて日本文化の一端を世界に知らしめたドイツ人オイゲン・ヘリゲルの『日本の弓術』を、受講生とともに読んでゆく。ドイツの知識人の眼を通して、いわば世界文化の文脈のなかで、日本文化の特徴や本質について考えてみたい。					
注意点	定期試験（前期末試験）〔ca. 100%〕によって評価する。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業についての説明。受講上の注意。		高等教育機関の「学生」としての受講姿勢を理解する。	
		2週	日本の近代とヨーロッパ		日本の近代とヨーロッパ文化との関わりについて理解する。	
		3週	日本の近代とヨーロッパ		日本の近代とヨーロッパ文化との関わりについて理解する。	
		4週	オイゲン・ヘリゲル『日本の弓術』を読む		文献を的確に読んで内容を把握し、文化的問題について理解する。	
		5週	オイゲン・ヘリゲル『日本の弓術』を読む		文献を的確に読んで内容を把握し、文化的問題について理解する。	
		6週	オイゲン・ヘリゲル『日本の弓術』を読む		文献を的確に読んで内容を把握し、文化的問題について理解する。	
		7週	オイゲン・ヘリゲル『日本の弓術』を読む		文献を的確に読んで内容を把握し、文化的問題について理解する。	
		8週	オイゲン・ヘリゲル『日本の弓術』を読む		文献を的確に読んで内容を把握し、文化的問題について理解する。	
	2ndQ	9週	オイゲン・ヘリゲル『日本の弓術』を読む		文献を的確に読んで内容を把握し、文化的問題について理解する。	
		10週	オイゲン・ヘリゲル『日本の弓術』を読む		文献を的確に読んで内容を把握し、文化的問題について理解する。	
		11週	オイゲン・ヘリゲル『日本の弓術』を読む		文献を的確に読んで内容を把握し、文化的問題について理解する。	
		12週	オイゲン・ヘリゲル『日本の弓術』を読む		文献を的確に読んで内容を把握し、文化的問題について理解する。	
		13週	意見交換		世界のなかでの日本文化のあり方について考察を深める。	
		14週	意見交換		世界のなかでの日本文化のあり方について考察を深める。	
		15週	(前期末試験)			
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	3	前1,前2,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	3	前1,前2,前3,前10,前11,前12,前13,前14
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	3	前1,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	3	前1,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	3	前1,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前14
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	2	前1,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20